

令和7年度エゾシカの生息状況モニタリングの実施結果

1. ロードセンサス

(1) 調査目的

対策地域での捕獲前後におけるエゾシカの生息状況の変化等を把握する。

(2) 調査方法

右岸堤防道路を車で低速走行しながら、目視（及び双眼鏡）で発見したエゾシカをカウントし、発見した位置と併せて記録した。過年度の調査は、月1回、朝（日の出直後）、昼（12時）、夕方（日没前1時間）、夜（日没後1時間）の時間帯に実施してきたが、エゾシカの活動性が低い昼やエゾシカの発見が困難な夜の時間帯を見直し、今年度は、エゾシカの活動性が高い朝（日の出直後）と夕方（日没前1時間半前）の時間帯に月2回実施した。

ロードセンサスの結果を捕獲効果の検証に活用するため、ArcGIS Field Maps を用いて、右岸堤防沿いで発見したエゾシカの位置と頭数を記録した。

(3) 調査結果

令和7年度の各月（10月～1月）の最大観察頭数を記録した時間帯の結果を図1～図4に示す。各月の最大観察頭数は、10月が614頭、11月が644頭、12月が632頭、1月が510頭で、どの月も前年より増加していた（表1）。最大観察頭数は、昨年度の最大数にエゾシカの一般的な自然増加率である1.2をかけた値よりも多い月と少ない月があった。

また、捕獲実施箇所を中心とした半径1km圏内におけるエゾシカの最大観察頭数では、捕獲実施中の赤沼において、12月は令和6年度37頭、令和7年度125頭、1月は令和6年度16頭、令和7年度94頭であり、自然増加率を大きく上回っていた。

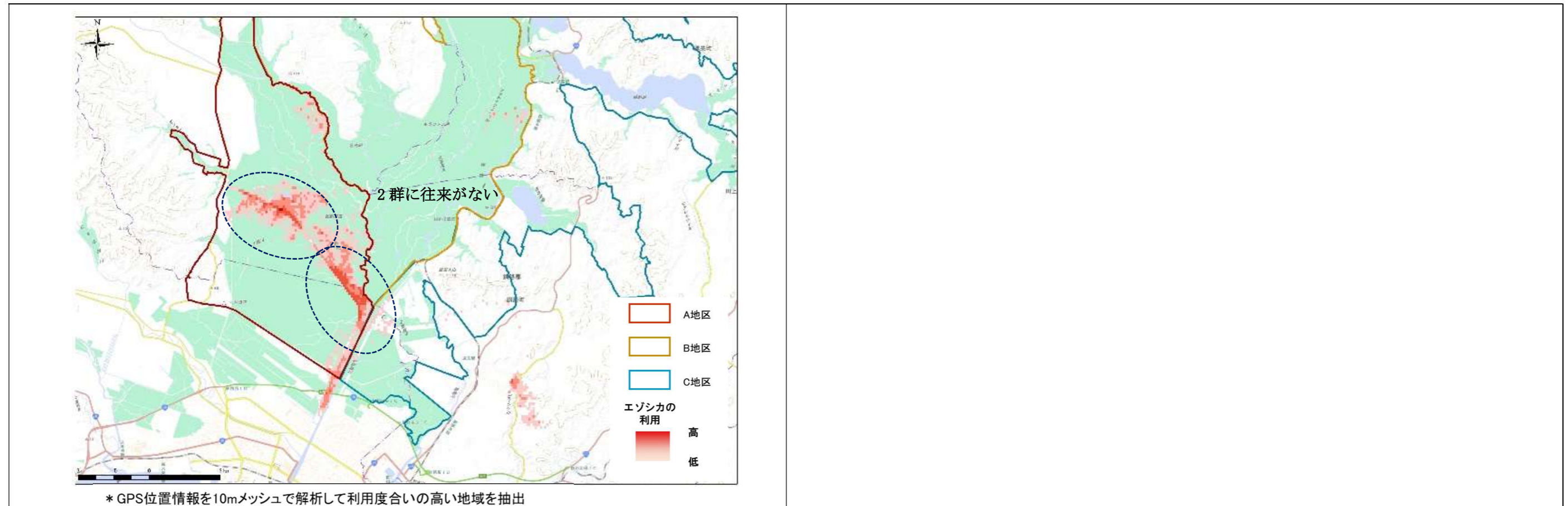
この要因としては、積雪深の違いや周辺からの流入、誘引の効果、釧路湿原の自然増加率が1.2より大きくなっている可能性などが考えられる。今後、捕獲目標頭数の設定に向けて、航空カウント調査の結果や捕獲数の推移と合わせてA地区における個体群動態を把握することが望ましい。

また、今年度のセンサスでは、調査中にタンチョウが確認された場合は確認された位置と羽数を記録した。12月までは河川沿いを中心に多くのタンチョウが確認されたが1月以降は確認されなかった。

表1 ロードセンサスにおける最大観察頭数の比較

	令和5年度		令和6年度		令和7年度
	観察数	観察数×1.2	観察数	観察数×1.2	観察数
10月			554頭	665頭	614頭
11月	504頭	605頭	533頭	640頭	644頭
12月	453頭	544頭	503頭	604頭	632頭
1月	416頭	499頭	475頭	570頭	510頭
2月	498頭	598頭	238頭	286頭	

捕獲実施箇所を中心とした半径 1 km 圏内におけるエゾシカ発見位置と頭数



<参考>A地区のエゾシカの生息地利用(右岸堤防のGPS首輪調査:15個体)10~12月(秋)

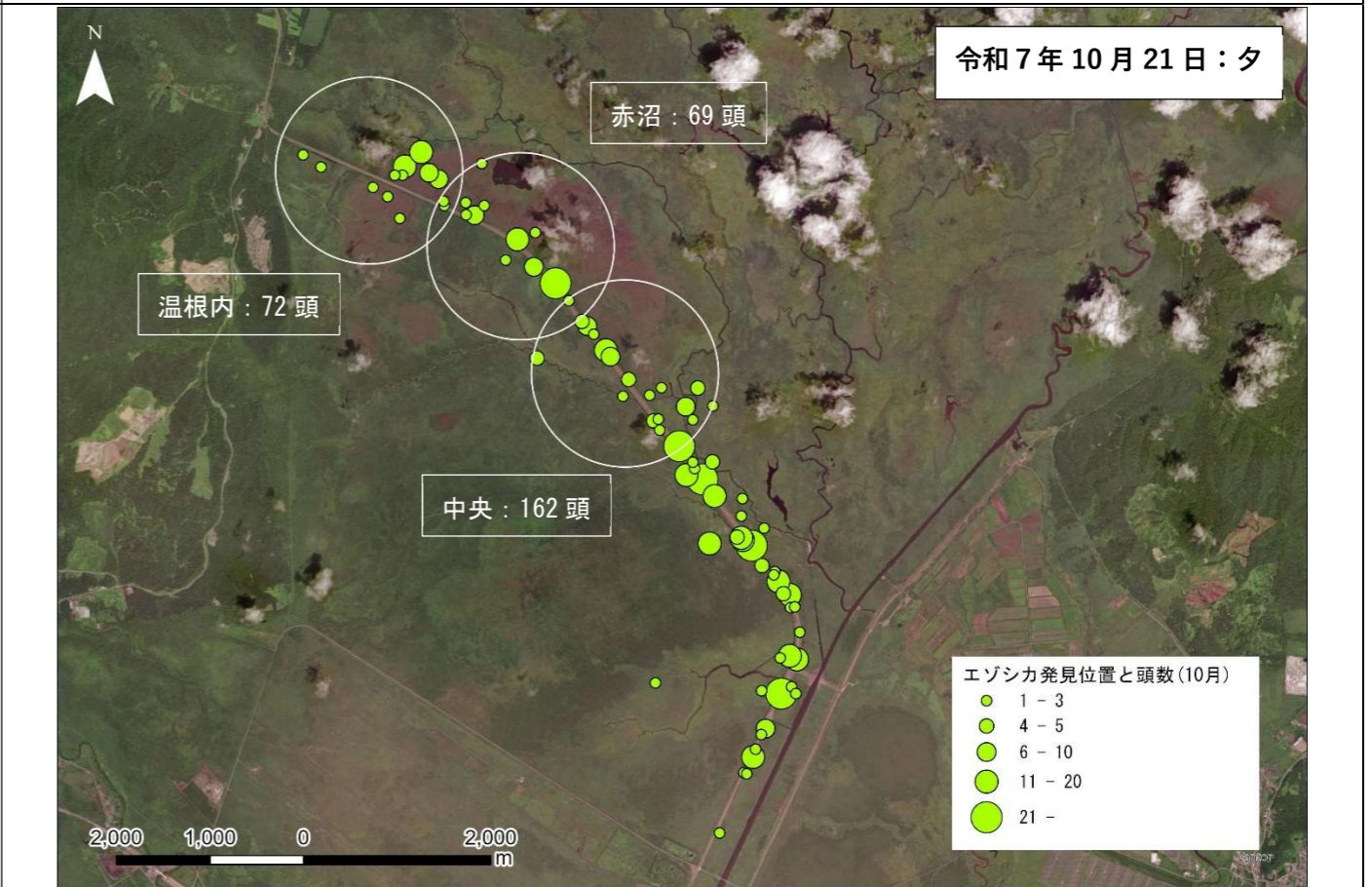
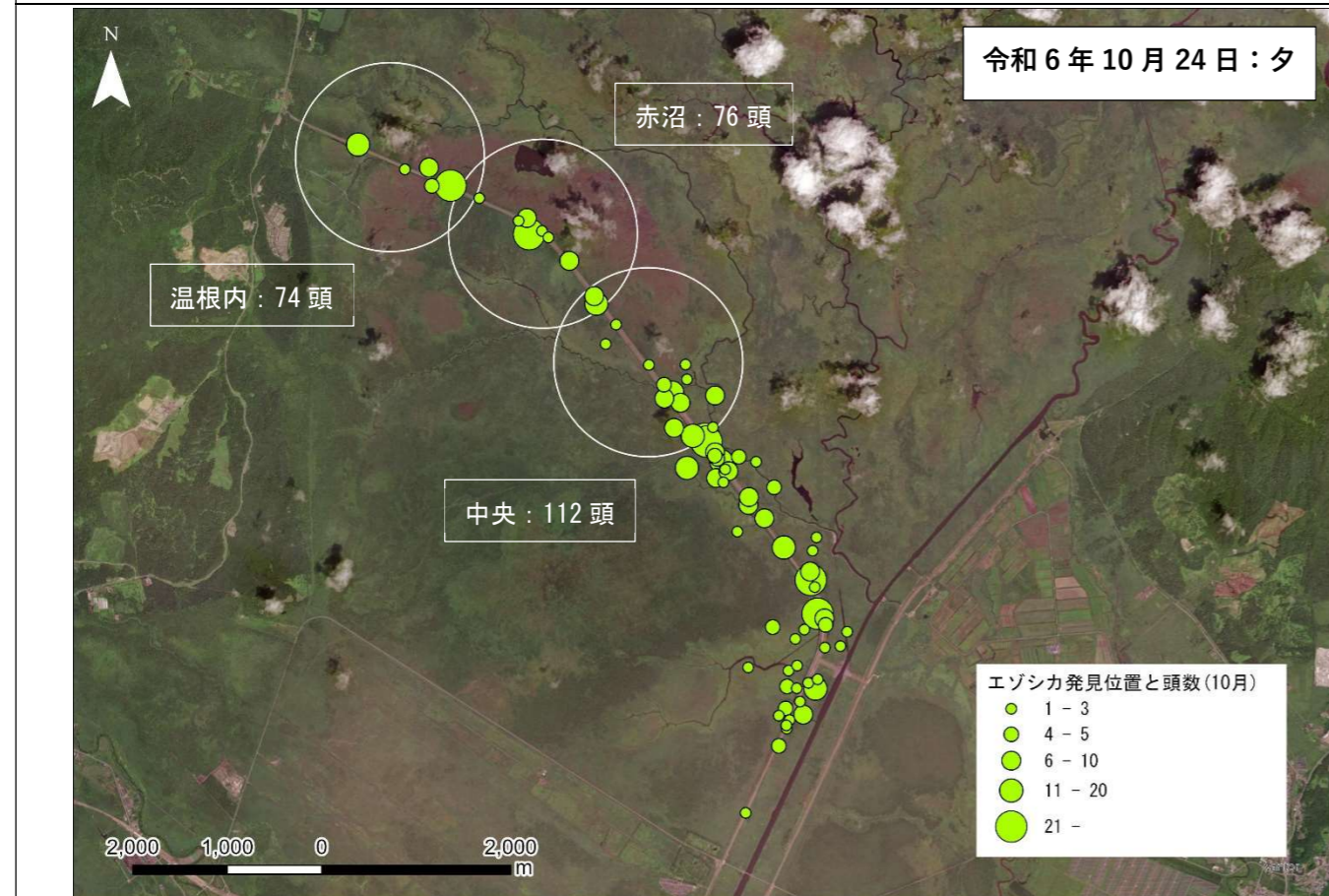


図1 10月のエゾシカ発見位置と頭数(左:令和6年度、右:令和7年度)

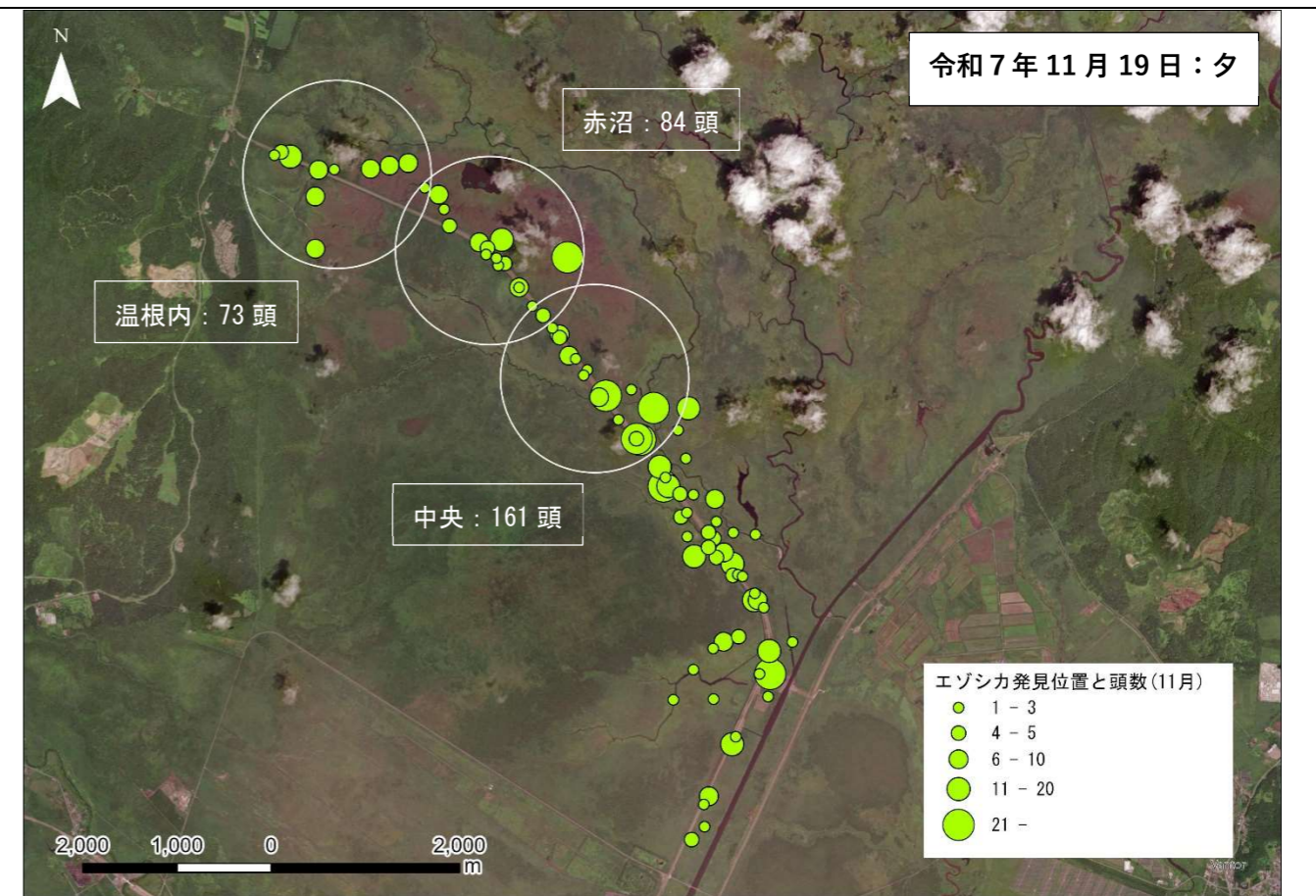
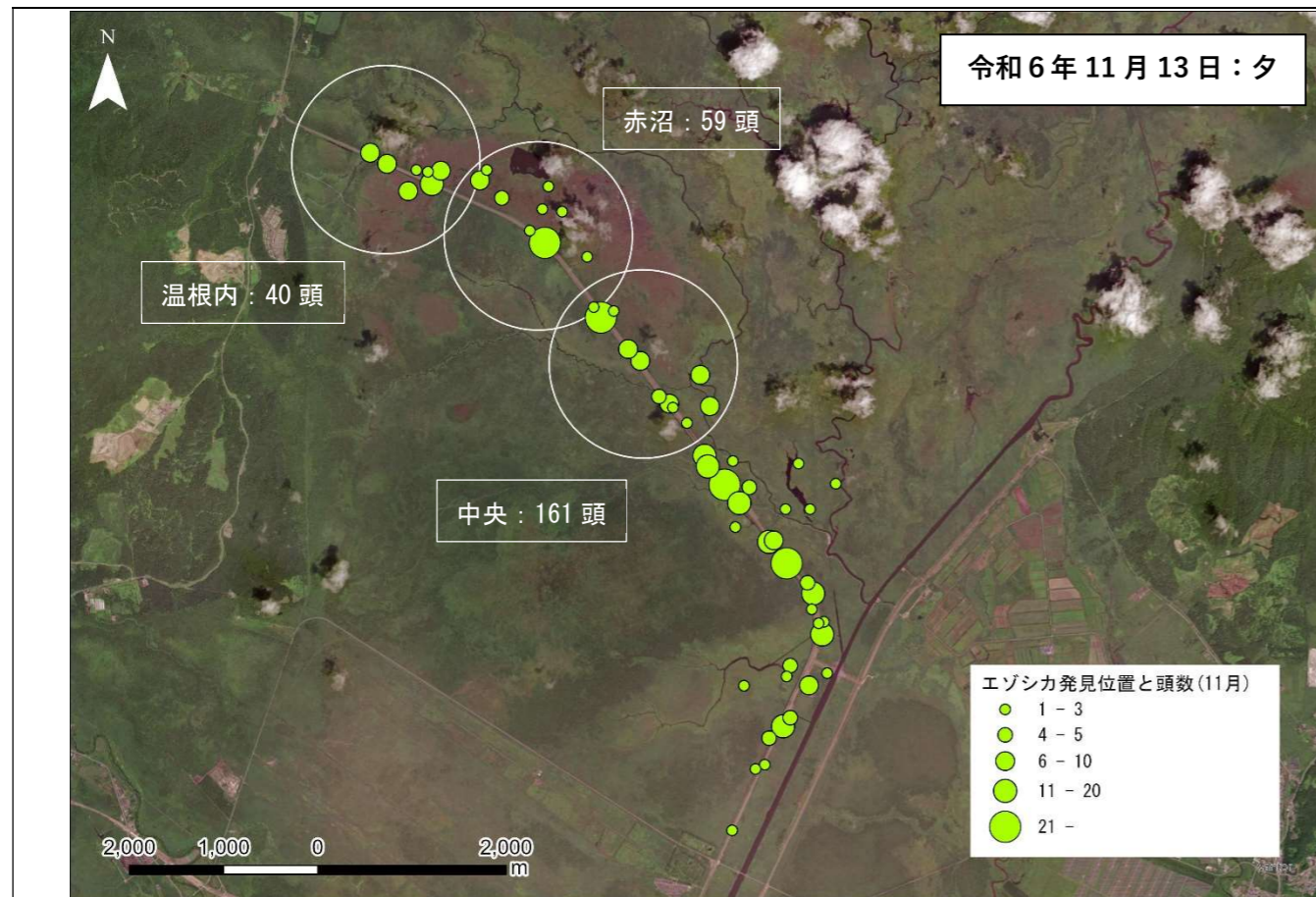


図2 11月のエゾシカ発見位置と頭数(左：令和6年度、右：令和7年度)

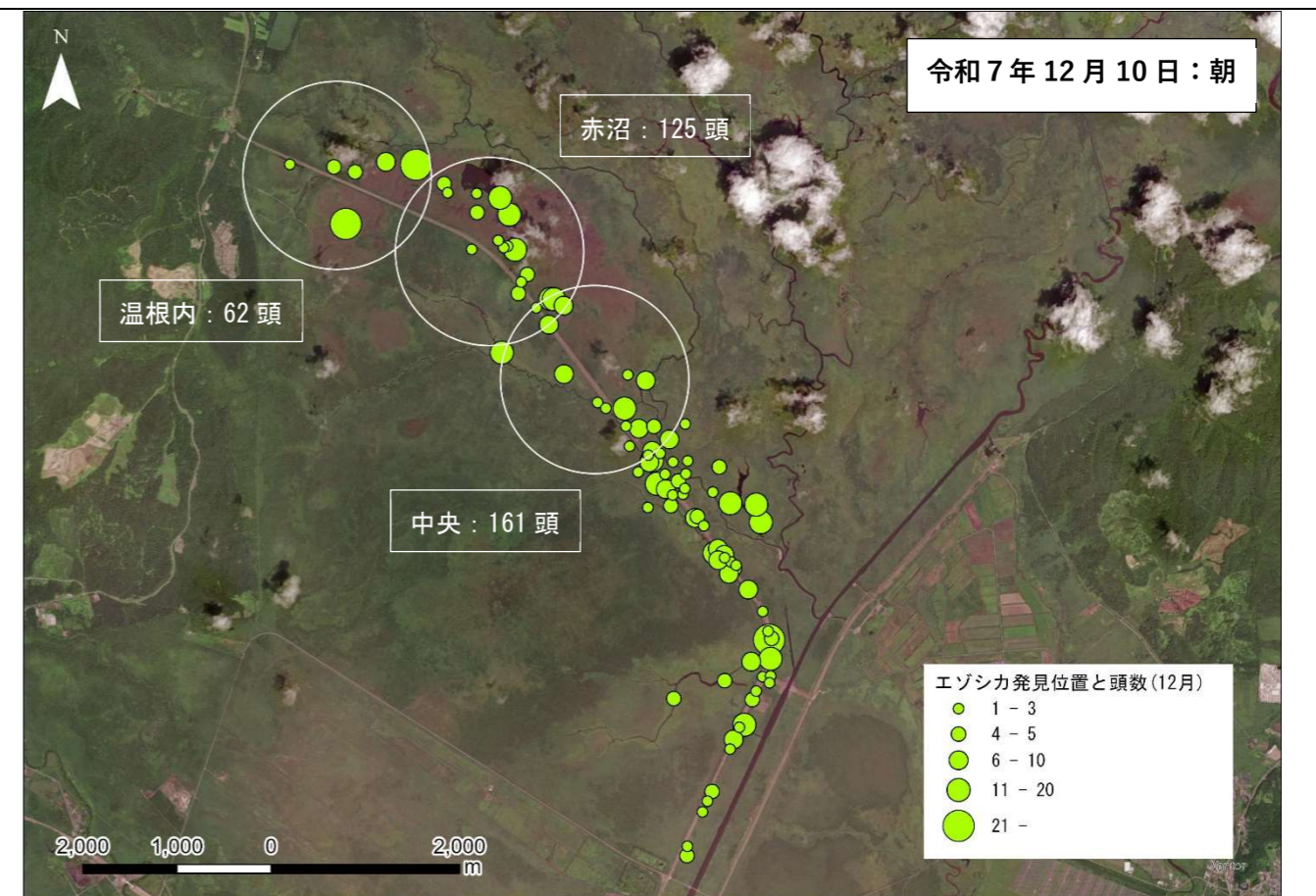
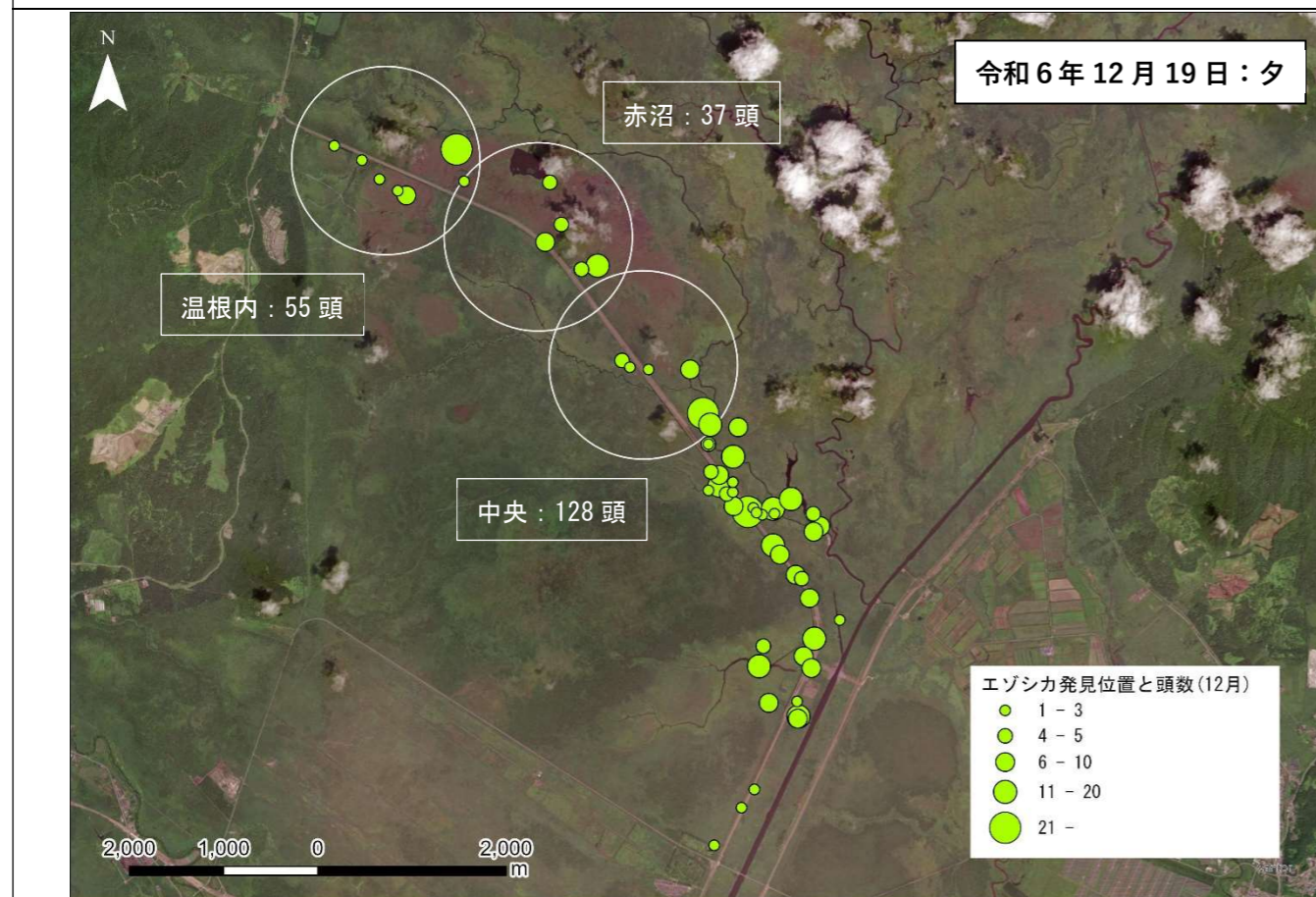
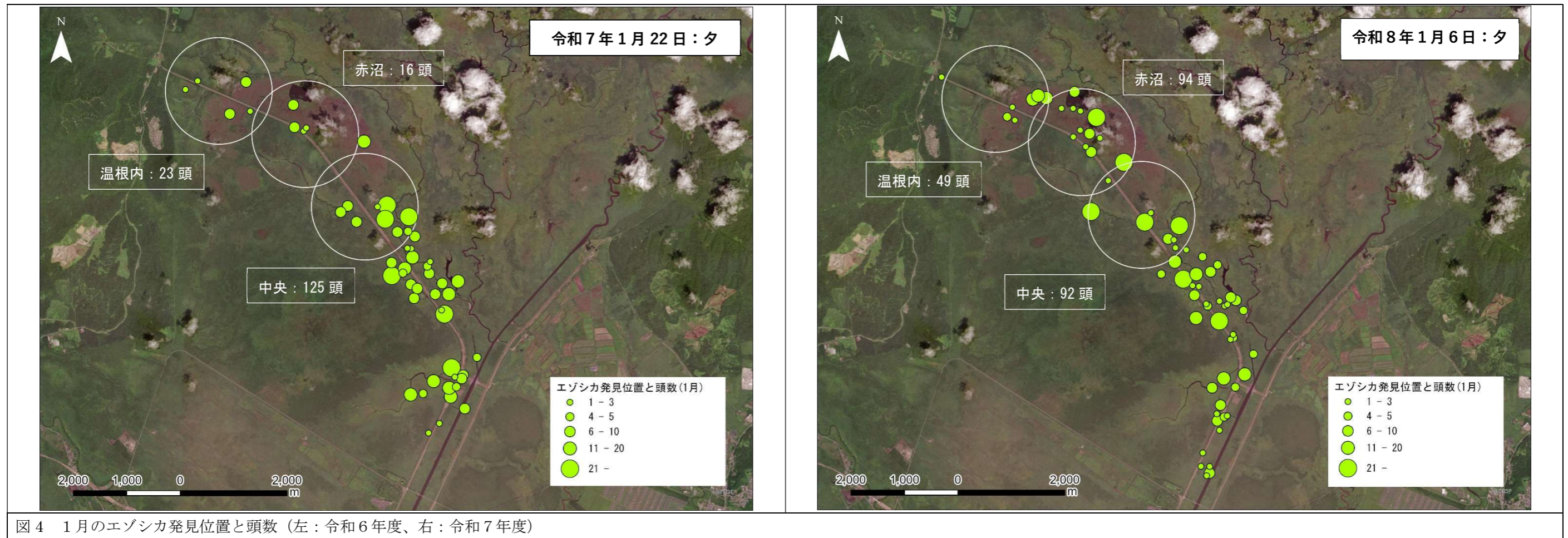


図3 12月のエゾシカ発見位置と頭数(左：令和6年度、右：令和7年度)



2. 令和2年度以降の生息状況モニタリングのまとめ

令和2年度の航空カウント調査の結果に基づき現行の実施計画が策定され、計画期間中はロードセンサスによる生息状況モニタリングを継続した。高層湿原周辺での集中的捕獲に移行し始めた令和5年度以降の捕獲数と合わせて、これまでのモニタリング結果を総括し、目標達成に向けた今後の捕獲戦略及びモニタリング戦略について考察する。

令和2年度航空カウント調査の結果と各年の捕獲数、自然増加率（1.2）から推定されるA地区の個体数の推移と右岸堤防でのロードセンサスの結果を表2にまとめる。

表2 令和2年以降の生息状況モニタリングの総括

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
A地区個体数	796	869	987	1099	1228	1474
右岸堤防個体数	379	406	473	504	554	644
右岸堤防/A地区	47.60%	46.70%	47.20%	45.80%	45.10%	43.70%
ワナ圏内個体数				285	262	348
ワナ圏内/右岸堤防				56.50%	47.30%	54.00%
A地区個体数: R2年度の航空カウント調査の結果と捕獲数に基づく推定値						
周辺地域の捕獲数については、捕獲地点や移出入の関係が不明であるため含めていない						
右岸堤防個体数: ロードセンサスにおける最大観察頭数						
右岸堤防/A地区: A地区個体数における右岸堤防個体数の割合						
ワナ圏内個体数: 温根内、赤沼、中央の捕獲地点の周囲1kmの円内の最大観察頭数						
ワナ圏内/右岸堤防: 右岸堤防個体数に対するワナ圏内個体数の割合						

【これまでのモニタリングでわかったこと】

- ・右岸堤防のロードセンサスで観察される個体数はA地区の約45%。
- ・ワナ圏内（高層湿原周辺を利用）の個体数は右岸堤防で観察される個体の約50%。
- ・R5-R6ではワナ圏内個体数の約30%を捕獲し、翌年には捕獲対象個体数の減少が見られた。
- ・R6-R7では、自然増加率を超える個体数の増加が見られた。赤沼周辺の個体は積雪が増えると右岸堤防から移動するが、R7年度は移動が見られないためだと考えられる。
- ・高層湿原周辺の個体数を減らすには、ワナ圏内個体数の30%以上の捕獲の継続が必要。
- ・A地区の個体数を減らすには、現在の捕獲に加えて、より広範囲で捕獲を行う必要がある。

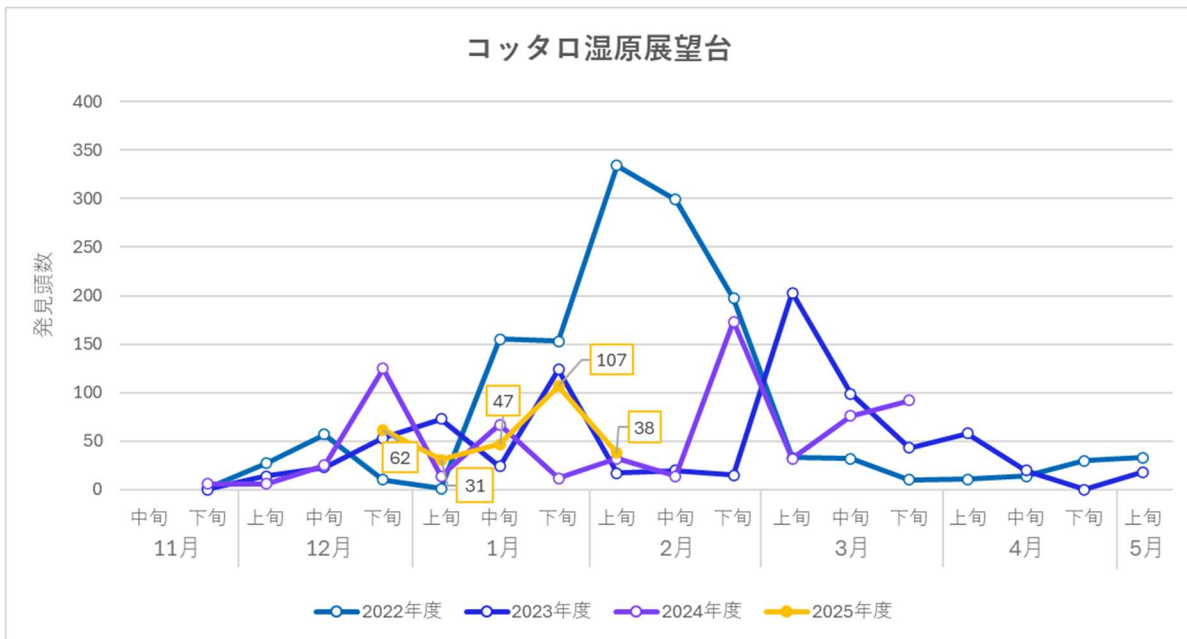
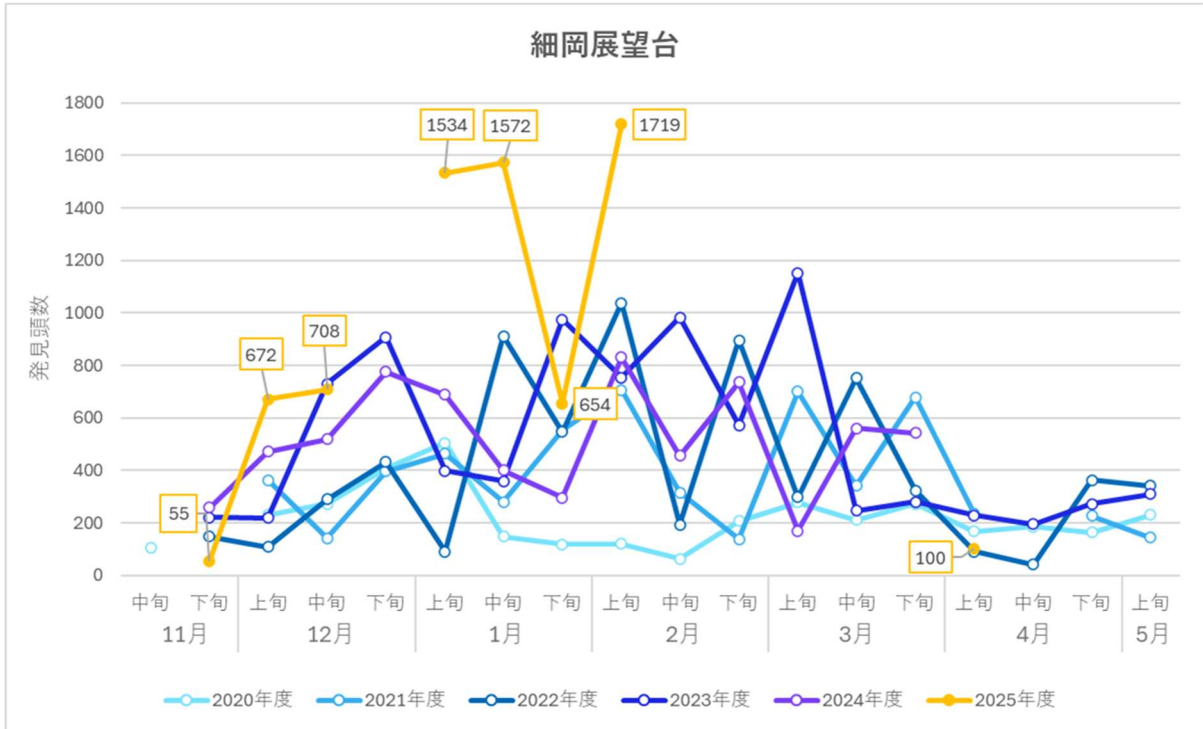
【今後の捕獲戦略に向けて】

- ・A地区の個体数低減に向けて、釧路湿原の保全と周辺市町村の被害防除の両方を目指した地域連携が必要
- ・湿原内と周辺市町村を行き来するエゾシカの行動追跡と捕獲候補地検討
- ・ワナ圏内個体数の30%捕獲を持続するための捕獲強化と手法検討

【今後のモニタリングに向けて】

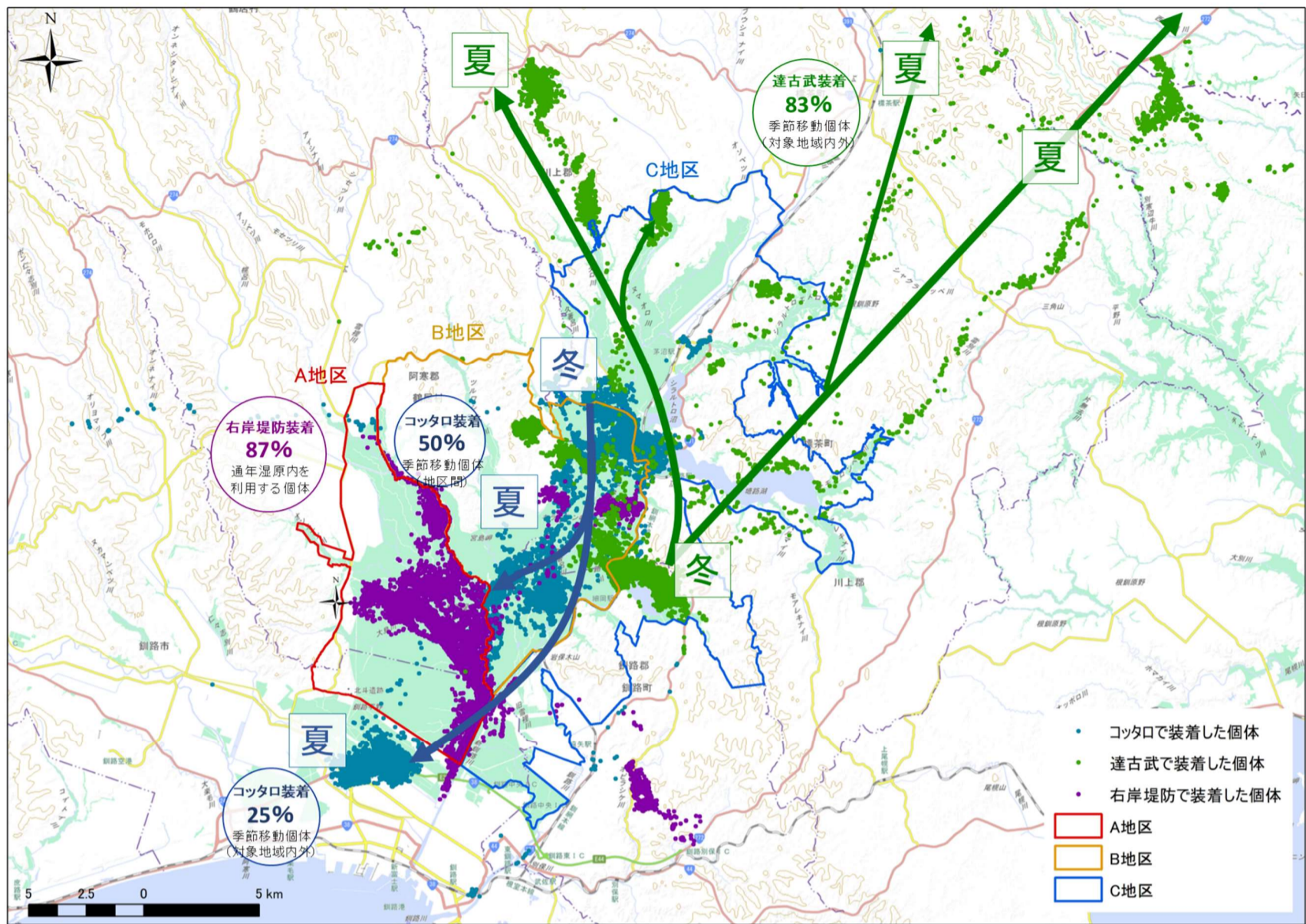
- ・移出入を加味した個体数推定を目指した、標識個体の放獣
- ・個体数の推移と植生影響の変化を目指したモニタリングの連携
- ・捕獲地点データや行動追跡データの共有と連携

<参考>過年度の細岡・コッタロ 展望台カウント調査結果



※道道 1060 号線の長期通行止めにより、2020～2021 年はコッタロ湿原展望台における調査を実施していない。

<参考>GPS 首輪調査による釧路湿原におけるエゾシカの生息地利用



<参考>エゾシカ航空カウント調査結果

航空カウント調査
2021.2 実施

2015年との比較

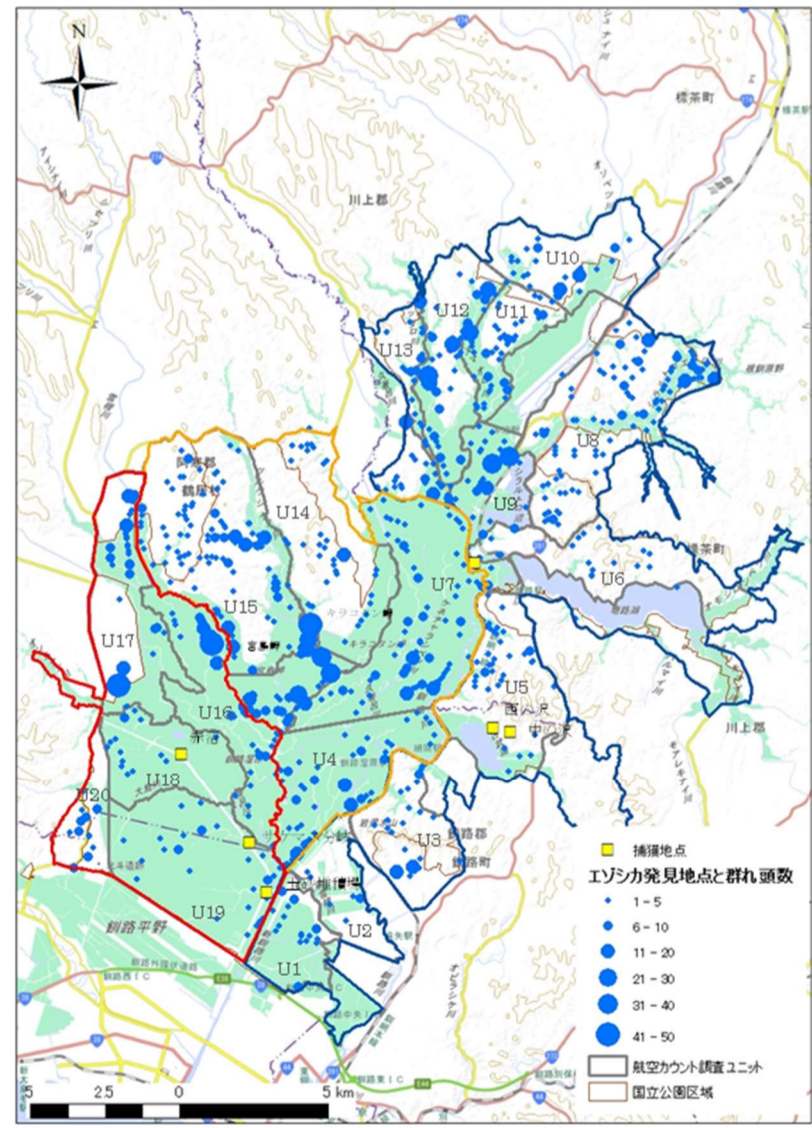
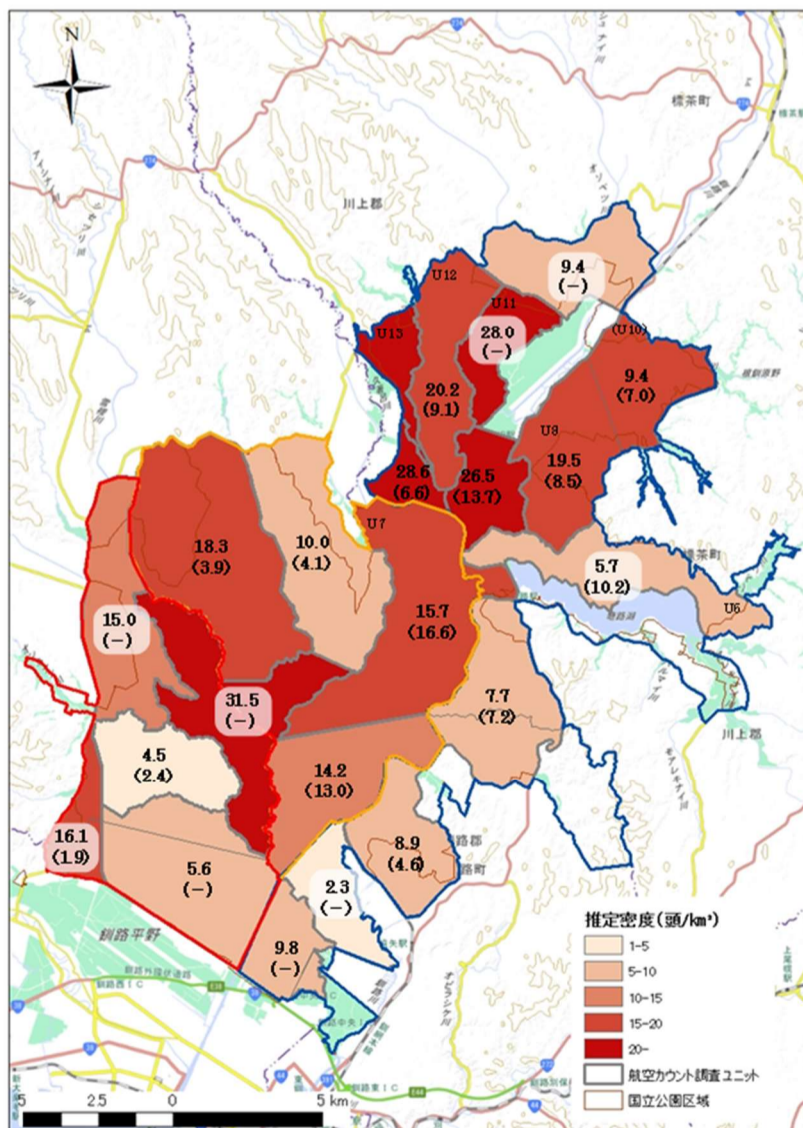
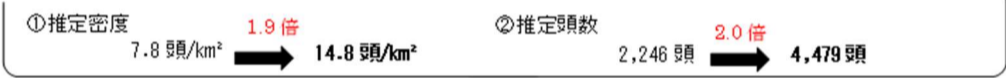


図1. 各航空カウント調査区ごとのエゾシカ推定密度 (2021年調査結果)
※括弧内は2015年調査結果、「-」は2015年調査未実施。

図2. 航空カウント調査区におけるエゾシカ発見地点と群れ頭数 (2021年調査結果)